

## イノベーションによる社会貢献を原点にした日立の歴史

日立は創業以来、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」ことを企業理念として社会インフラを支える技術・製品の開発によって、社会が直面する課題を解決してきました。110年以上の歴史の中で培ったOT(制御・運用技術)、IT(情報技術)、プロダクト、それらの統合的な提供により社会に新たな価値を生み出す社会イノベーション事業で、人々のQoL(Quality of Life)を向上させるとともに、持続可能な社会の実現をめざします。

創業者 小平浪平が抱き、創業以来大切に受け継いできた企業理念、その実現に向けて先人たちが苦勞を積み重ねる中で形づくられた日立創業の精神。そしてそれらを踏まえ、日立グループの次なる成長に向けて、あるべき姿を示した日立グループ・ビジョン。これらを、日立グループの MISSION、VALUES、VISIONとして体系化したものが、日立グループ・アイデンティティです。

### 日立グループ・アイデンティティ

日立グループが社会において果たすべき使命

MISSION

企業理念

優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する

ミッションを実現するために日立グループが大切にしている価値

VALUES

日立創業の精神

和・誠・開拓者精神

これからの日立グループのあるべき姿

VISION

日立グループ・ビジョン

日立は、社会が直面する課題にイノベーションで応えます。優れたチームワークとグローバル市場での豊富な経験によって、活気あふれる世界をめざします

### History of Hitachi, Ltd.

1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980



5馬力誘導電動機



都市のインフラ整備



東海道新幹線用電車の製作



島根原子力発電所の運転開始



大型コンピューターの開発・提供

#### Episode 1

1910年、創業者 小平浪平は、自らの力で電気機械を製作し、日本の機械工業を発展させることで社会に貢献したいとの志を抱き、日立製作所を創業しました。



日立の創業者  
小平浪平



創業小屋

試験や研究を強化することで技術力を高め、数多くの製品の開発・提供を行ってきた日立には、社会に貢献する創業者の志が、たゆまず受け継がれています。

#### Episode 2 関東大震災からの復興に貢献

1923年に日本で発生した関東大震災は、首都圏に未曾有の被害をもたらしました。日立も亀戸工場が半壊する被害を受けるなかで、小平浪平は「日本の頭部ともいべき京浜地方の復興を第一の任務とすべきである」と指示し、首都圏の電力インフラ復旧に必要な関連製品を増産・供給するなどインフラ復旧に尽力しました。日立の変電設備や変圧器の技術力の高さから、日立の名前が国内に広まる契機となりました。

#### Episode 3 大型コンピューター開発

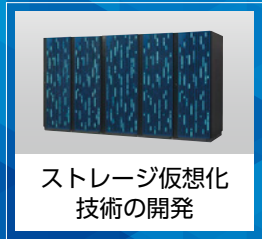
1950年代後半、日立は国鉄(日本国有鉄道、現・JRグループ各社)が進めていた座席予約システム(MARS-1)の開発に参加しました。当時はすべてが手作業だった座席予約をシステム化し、利用者の利便性につなげる目的でしたが、開発は苦難の連続でした。1959年に中央処理装置のコンピューターを完成させ、1960年には駅に設置する端末装置の開発にも成功しました。全国で特急券の予約業務システムが運用を開始し、予約システムは進化を続け今日に至っています。

1990

2000

2010

2020



**Episode 4** 鉄道発祥の地・英国に高速鉄道車両を提供

2009年、日本の車両メーカーとして初めて納入した英国内輸送高速化用車両の174両の車両(Class 395)が営業運転を開始しました。2017年にはロンドンと英国北部、西部を結ぶ都市間高速鉄道に納入した866両の車両(Class 800)が営業運転を開始したほか、2021年には英国の次世代高速鉄道車両の設計、製造、保守に関する事業を受注しました。約20年間をかけて築いた英国における日立の鉄道ブランドが確立できた証でもありました。

**社会イノベーション事業**

OT・IT・プロダクトのノウハウを併せ持つことでより高度な社会インフラを構築

LUMADA

業績の推移

